

令和3年度地域包括支援センター事業評価 様式

(馬橋西) 地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

1. 組織／運営体制

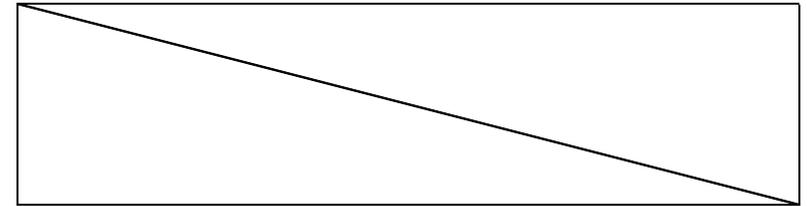
評価項目		回答欄	行政評価	特記項目
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	4.05	<p>「キ」について、業務改善出来た重点項目に○を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数 ● 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか ● 地域住民からの虐待通報が上がっているか ○ ● 令和3年度、認知症予防プロジェクトを新規に開始したケース件数 ● 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか <p>「ウ」が「いる」の場合、ニーズの把握方法を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相談内容に合わせ職員間でニーズの分析を行い、地域包括内で解決が難しい場合には地域個別ケア会議での課題として検討している。 ● 地域で多い課題を題材に、地域包括の入り口に地域個別ケア会議でのケアマネ向けの検討事例についてのポスターの掲示を継続している。 ● 体操教室等住民が集まるイベントでのアンケート調査を行っている。 ● コロナ禍という事もあり民生委員さん等と電話でのやり取りを随時行っている。
評価の根拠	ア. 市町村が定める運営方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか。	いる		
	イ. 事業計画の策定に当たって、市町村と協議し、市町村から受けた指摘がある場合、これを反映しているか。	いる		
	ウ. 市町村の支援・指導の内容により、逐次、センターの業務改善が図られているか。	いる		
	エ. 市町村が設置する定期的な連絡会合に、毎回、出席しているか。	いる		
	オ. 「事業計画」を法人として決定しているか。	いる		
	カ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善を行っているか。(最低月1回チェックしていれば「いる」を選択)	いる		
	キ. 重点項目 5つの重点項目について、前年度事業評価より業務改善(又は達成)出来ているか。 ※この重点項目は除く	4項目以上で改善(又は達成)出来ている		
②担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4	
ア. 市町村から、担当圏域の現状やニーズの把握に必要な情報の提供を受けているか。	いる			
	イ. 把握した担当圏域の現状やニーズに基づき、センターの取組における重点項目を設定しているか。	いる		

評価の根拠	ウ. 独自に担当圏域のニーズを把握しているか。	いる			
	エ. 把握した担当圏域のニーズに基づき、実務実施上の工夫や配慮を行っているか。 【令和3年度の取組が対象】	いる			
③多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		3	3.43		
評価の根拠	ア. 3職種(それぞれの職種の準ずる者は含まない)を配置しているか。(令和3年度4月末時点)	いない			
	イ. 年間を通じて3職種(それぞれの職種に準ずる者は含まない)の必要人数が配置されているか。	いる			
	ウ. 市町村から、年度当初までにセンター職員を対象とした研修計画が示されているか。	いる			
	エ. センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場での仕事を離れての研修(Off-JT)を実施しているか。	いる			
	オ. 市、県が行う研修にセンター職員が参加しているか。	全専門職が研修に参加している			
	カ. 職員に対する職場内研修の開催回数(伝達研修は除く)	22		回	
	キ. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点	①		32	点
		②		32	
③		31			
④		38			
⑤					
⑥					
⑦					
合計		133			
平均	33.25				

「エ」が「いる」の場合、その具体的な内容を記載【自由記載】
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も継続して訪問介護の同居家族の有無なども含み、住民や民生委員等で介護保険制度について詳しく理解されていない部分がある為、主任介護支援専門員による介護保険の話を開催し、介護保険の手引きの説明を行った。介護タクシーについての注意事項や訪問介護について同居家族がいるとサービスが受けられない事等についての説明をした。 ・電話DE詐欺被害防止の為、移動交番に依頼し講演会を開催 ・水害があった時などは多大な被害を受ける地域である為防災をテーマにした交流会を開催した。夜間の避難経路と昼間の避難経路の違いを見てもらう為に一緒に歩く避難経路を開催した。夜間の避難経路については職員が夜間に歩き撮影した。 ・災害時の民生委員さんの役割について地域福祉課に確認し「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」というものを教えてもらい、民生委員さんに情報提供をした。 ・ホームページを作成し地域の高齢者の方が作成した作品や川柳作品の掲載した。オンライン文化祭として随時開催している。 ・イベント等の申し込みについて電話だけではなく、ホームページ、メール、FAXでの申し込み等の対応を行っている。
「オ」が「いる」の場合、その研修内容を記載【自由記載】
<ul style="list-style-type: none"> 4月11日 第60回研修会 介護報酬改定と主任ケアマネの役割・地域共生社会における主任ケアマネの役割 4月12日 新型コロナワクチン在宅介護サービス利用者に対する接種体制の構築に係る説明会 5月17日 馬橋西ワーキング「馬橋西地区2層ワーキング立ち上げ会」 5月27日 令和3年度市長申立て検討会 6月7日 馬橋西ワーキングウォーキング 7月8日 高齢者虐待における事例研究等に関する調査研究ミニ説明会 7月8日 認知症を予防する食生活 7月16日 認知症疾患医療センター合同連絡協議会 9月2日 身寄りがない人のための老後の備えと終活 10月7日 コロナ禍を踏まえた認知症の方の生活支援 10月18日 アウトリーチ事例検討会 10月28日 セルフネグレクト・支援拒否事例への支援 11月7日 認知症初期集中支援チーム員研修 12月17日 精神疾患を抱える事例へのアプローチ方法 1月18日19日 認知症地域支援推進員研修 1月24日 要介護施設従事者等の高齢者虐待防止に向けたアンガーマネジメントについて 1月28日 介護予防ケアマネジメント～本人を動機づけるアセスメントとプレ・プランニング～ 1月28日 認知症初期集中支援チーム員フォローアップ研修 1月28日 高次機能障害支援拠点合同連絡協議会 2月4日 2021年度 認知症疾患連携協議会 2月7日 地域でケアラーを支援するために～孤独による虐待を防ぐ地域の取り組み～ 2月8日 在宅限界点向上の為の研修会～医療と介護の資源を使い倒す～ 2月15日 介護保険制度の変遷からみた介護支援専門員の役割の変化 2月17日 専門研修「虐待防止対策」 2月22日 成年後見制度について、任意後見制度について、地域包括支援センターからの依頼事例の解説 2月26日 認知症疾患医療センター研修会 3月2日 高齢者虐待防止に関わる養護者支援～養護者タイプ別支援モデルの活用～ 3月4日 成年後見制度の概要、成年後見制度の利用までの流れ等 3月10日～24日 認知症施策の動向・地域共生社会の実現に向けた権利擁護支援の促進 3月22日 支援者からの報告とともにしたアセスメントのポイント・支援方針 3月22日 報告・取り組み事例の発表

④利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		4	4
評価の根拠	ア. 夜間・早朝の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。	いる	
	イ. 平日以外の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。	いる	
	ウ. パンフレットの配布等、センターの周知を行っているか。	いる	
⑤個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4
評価の根拠	ア. 個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル(個人情報保護方針)を整備しているか。	いる	
	イ. 個人情報が漏えいした場合の対応など、市町村から指示のあった個人情報保護のための対応を、各職員へ周知しているか。	いる	
	ウ. 個人情報の保護に関する責任者(常勤)を配置しているか。	いる	
	エ. 個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか。	いる	
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		4	4
評価の根拠	ア. 市町村の方針に沿って、苦情対応体制を整備し、苦情内容や苦情への対応策について記録しているか。	いる	
	イ. センターが受けた介護サービスに関する相談について、市町村に対して報告や協議を行う仕組みが設けられているか。	いる	
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開しているか。	いる	

⑦プライバシーに配慮した相談環境を整備しているか。	4	4
評価の根拠 ア. 相談者のプライバシー確保に関する市町村の方針に沿い、プライバシーが確保される環境を整備しているか。	いる	



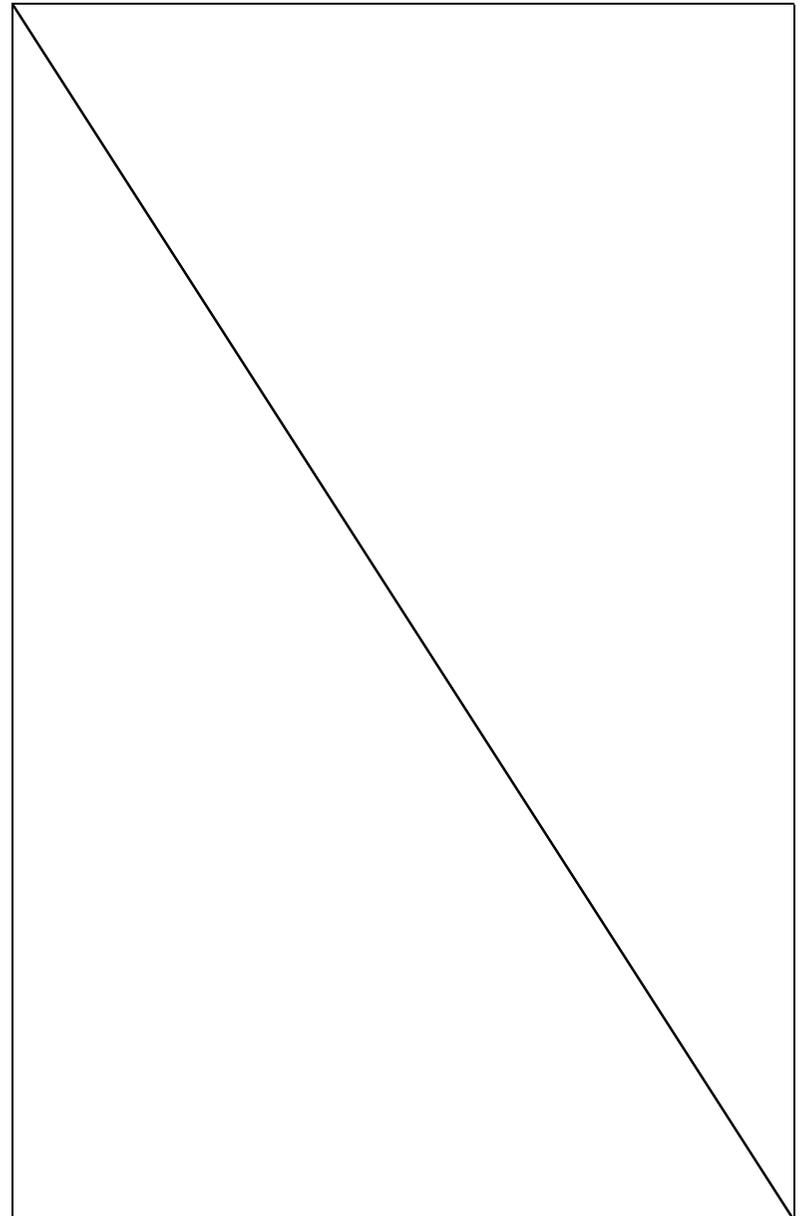
2. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価		
①地域の社会資源について把握および開発を行っているか。	3	3.2		
評価の根拠	ア. 地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員・連絡先・特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか。	いる		
	イ. 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)に関するマップを令和2年度内に更新をしているか。	いる		
	ウ. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等)を行う地域(圏域内・外)の社会資源に繋がった社会資源の数【重複可】	圏域内	34	ヶ所
		圏域外	21	ヶ所
	合計	55	ヶ所	
エ. 重点項目 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数。	2	団体		
オ. 社会資源の運営支援を目的として、会議(オンライン含む)に出席した延べ回数。	4	回		
②相談内容の把握・分析を行っているか。	4	3.83		
評価の根拠	ア. 相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか。	いる		
	イ. 相談事例の分類方法を、市町村と共有しているか。	いる		
	ウ. 1年間の相談事例の件数を、市町村に報告しているか。	いる		
	エ. 相談事例解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村からの支援があったか。	いる		
	オ. 家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残留して取りまとめているか。	いる		

事例・特記項目
<p>「エ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)・立ち上げ支援の方法の詳細情報を記載【自由記載】</p> <p>【種類】</p> <p>①男性を中心としたつどいの場づくり(馬橋西の暮らしを育む会)</p> <p>②包括前のオレンジガーデン(水やり等を通じて誰でも通う事が出来る遊び場作り)</p> <p>【特徴】</p> <p>①ゴミ拾い&ウォーキング</p> <p>②水やりや花を植える。週替わりでマッチ棒クイズ等を行い、より若い世代にも話題にしてもらう。通りすがりの方同士でのコミュニケーションが生まれ、自然なつどいの場になっている。近隣住民からのお花の寄付やケアマネからの利用者の参加の依頼などもあり、様々な方にも参加してもらうことができています。</p> <p>【開催回数(週・月〇回)】</p> <p>①毎月第二月曜日開催 9月13日 11月8日 12月13日 1月10日 2月14日 3月14日</p> <p>②月～金(平日)開催</p>
<p>「オ」の各社会資源の種類・会議開催日(〇月〇日)・会議内容等の詳細情報を記載【自由記載】</p> <p>【種類】</p> <p>男性を中心としたつどいの場を作ろう</p> <p>【会議開催日】</p> <p>5月17日 6月7日 7月6日 8月2日</p> <p>【会議内容等】</p> <p>ウォーキングをしながら地域の資源などを見てまわり、特に男性が参加しやすい内容のものを考える。ウォーキングとゴミ拾いを組み合わせる形で毎月1回の駅前のゴミ拾いを実施する事になった。</p>

評価の根拠

カ. 分類別の相談件数 (高齢者1000人当たりの件数) a.本人又は親族への支援 b.本人又は親族以外の機関への支援	a.本人又は親族への支援 (件数)	
	介護に関する相談	1144
	退院後の生活に関する相談	103
	健康・医療に関する相談	817
	認知症に関する相談	276
	経済的相談	123
	介護予防に関する相談	51
	家族調整に関する相談	158
	権利擁護に関する相談	56
	諸制度や地域の社会資源に関する相談	425
	日常生活(家事・外出等)に関する相談	359
	人・地域との交流に関する相談	87
	安否確認(見守り含む)	582
	介護者の離職防止に関する相談	10
	多分野に関する相談	85
	その他	601
	総計	4877
	高齢者1000人当たりの件数	835
	b.本人又は親族以外の機関への支援 (件数)	
	介護に関する相談	1067
	退院後の生活に関する相談	210
	健康・医療に関する相談	664
	認知症に関する相談	236
	経済的相談	174
	介護予防に関する相談	30
	家族調整に関する相談	214
	権利擁護に関する相談	107
	諸制度や地域の社会資源に関する相談	263
	日常生活(家事・外出等)に関する相談	225
	人・地域との交流に関する相談	68
安否確認(見守り含む)	402	
介護者の離職防止に関する相談	6	
多分野に関する相談	151	
その他	627	
総計	4444	
高齢者1000人当たりの件数	760.8	



③相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。		4	3.8
評価の根拠	ア. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断しているか。	いる	
	イ. 全ての相談事例において、緊急性に変化がないか、3職種で定期的に確認・共有するしくみを整備しているか。	週1回実施している	
	ウ. 全ての相談事例において、必要に応じ他分野との連携を図っているか。 ※他分野とは、警察、消防などの機関、済困窮や就労、母子関係部署、法律家などを示す	いる	
	エ. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を毎月行い、市(基幹型)に報告する仕組みはあるか。	報告する仕組みがあり、緊急度チェックリストに該当したケースは全てモニタリング予定表を市に提出している	
	オ. 地域で開催される行事等(出張相談窓口も含む)において、相談ブースの開設を行っているか。	開設し、相談者が3人以上	

<p>「イ」が週1回・月1回・不定期で実施している場合、具体的内容を記載(共有方法・記録の有無など)</p> <p>【共有方法】 毎朝のミーティング 月1回の全體會議 相談後必要時のミーティング</p> <p>【記録の有無】 各自ノートに記録をし、緊急度チェックリストやケース台帳を利用している。</p>
<p>「ウ」が「いる」の場合、その具体的な連携先、内容を記載【自由記載】</p> <p>【具体的な連携先】 ①ほっとねっと ②おんぶ ③警察 ④自立相談支援センター ⑤法律関係者(弁護士・司法書士・行政書士・税理士) ⑥不動産関係</p> <p>【内容】 ①②【ほっとねっと、おんぶ】 高齢者と障害者の家族等、他問題があるケースについて情報提供や協働をした。 ③【警察】 徘徊高齢者等情報提供書の提供があった場合、必要に応じて警察より情報収集をした。 高齢者虐待やDV、傷害事件、近隣トラブル、安否確認等において、必要に応じて警察と同行訪問を行ったり、双方向での情報共有をした。 ④【自立相談支援センター】 ①、②での他問題ケースの就労や借金問題などの相談をし、正職員で働けるような支援をした。 ⑤【法律関係者】 地域包括ケアシステム構築支援アドバイザー弁護士、しぐなるあいず弁護士、司法書士事務所と連携し、成年後見申立や債務整理等で連携。 ⑥【不動産関係者】 自宅の売却や空き家問題、ゴミ屋敷問題についての相談をした。</p>

3. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	事例・特記項目
①成年後見制度の活用を促進しているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 成年後見制度の市町村長申し立てに関する判断基準が、市町村から共有されているか。	いる		
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 高齢者虐待事例及び高齢者虐待を疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか。	いる		
	イ. センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論及び報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか。	いる		
③消費者被害の防止に関する啓発・取組を行っているか。		4	4	
評価の根拠	ア. 消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、対応しているか。	いる		
	イ. 消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。	いる		

④その他、権利擁護に関する取組を行っているか。		4		3.85
評価の根拠	ア. 権利擁護(高齢者虐待防止市民向け講演会を含む)に関する講演会の開催回数・参加者数。	a開催回数	3	回
		b参加者数	202	人
	イ. 高齢者虐待防止のため、男性養護者支援(社会資源の育成、社会資源の周知等)を実施しているか。※個別支援は含まない	いる		
	ウ. 重点項目 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか。※全地域包括合同の高齢者虐待防止市民向け講演会以外の高齢者虐待防止に関する講演会、パートナー講座、講演会DVDの貸出、各会議での研修等が対象。	いる		
エ. 重点項目 地域住民からの虐待通報は上がっているか。※地域住民は家族、虐待者、被虐待者、民生委員、近隣住民、知人を指す	いる			

<p>「イ」が「いる」の場合、その支援方法を記載【自由記載】 男性介護者のつどいを開催した。内容としては新春イベントとして落語や体操等を行ったり認知症介護の映像の鑑賞会やミニチュアの苔庭づくりを行った。</p>
<p>「ウ」が「いる」の場合、その詳細(日時・内容・対象者等)を記載【自由記載】</p> <p>【日時】 ①8月31日 ②9月28日 ③10月29日 ④12月3日</p> <p>【内容】 ①②前年度作成の虐待防止上映会のDVDを利用し説明をした。 ③松戸警察移動交番、生活安全課に依頼し詐欺被害防止についての啓発活動を行った。 ④市民向け講演会(Zoom等)</p> <p>【対象者等】 ①馬橋西地区在住の方、オレンジ協力員 ②馬橋西地区の民生委員 ③馬橋西地区在住の65歳以上の方 ④市内在住、在勤の方</p>

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目		回答欄			行政評価	事例・特記項目
①地域の介護支援専門員の状況把握・連携が図れているか。		4			4	
評価の根拠	ア. 担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握しているか。	いる			/	
	イ. 介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示しているか。	いる				
	ウ. 介護支援専門員に対するアンケート・意見収集等について市町村からの情報提供や、市町村による研修会の内容等を踏まえ、地域の介護支援専門員のニーズや課題に基づく事例検討会や、個別事例を検討する地域ケア会議等を開催しているか。	いる				
	エ. 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者(例:医療機関や地域における様々な社会資源等)との意見交換の場を設けているか。	いる				
	オ. 介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか。	いる				
	カ. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握しているか。	いる				
②地域の介護支援専門員に対して、個別指導・相談・助言を効果的に行っているか。		4			3	
評価の根拠	ア. 令和3年度、1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数。	単独	1	回	/	
		合同	0	回		
		合計	1	回		
	イ. 同行訪問による個別指導・助言の件数(サービス担当者会議への出席は除く)。(高齢者1000人当たりの件数)	合計	125	件	/	
		高齢者1000人当たりの件数	21.4	件		
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数。(高齢者1000人当たりの件数)	合計	65	件	/	
高齢者1000人当たりの件数		11.1	件			

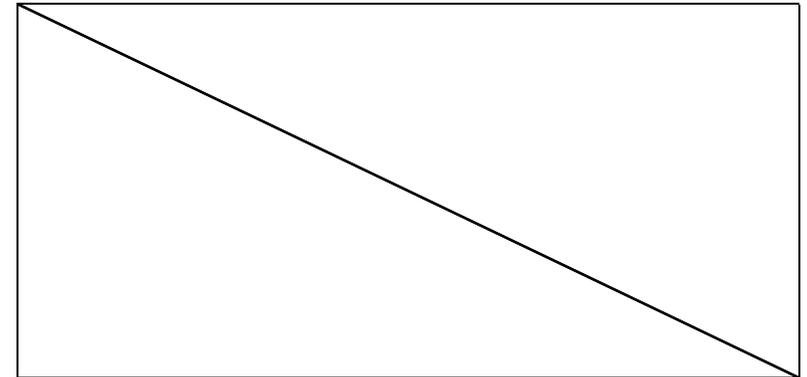
5. 地域ケア会議関係業務

評価項目	回答欄	行政評価
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。	4	3.75
ア. 地域ケア会議が発揮すべき機能、構成員、スケジュール等を盛り込んだ開催計画が市町村から示されているか。	いる	
イ. センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員・会議参加者・地域の関係機関に対して周知しているか。	いる	
ウ. センター主催の地域ケア会議において、個別事例について検討しているか。	いる	
エ. センターの主催の地域ケア会議において、多職種と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか。	いる	
オ. 市町村から示された地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で対応しているか。	いる	
カ. センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか。	いる	
キ. 地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングしているか。	いる	
ク. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定しているか。	個別、推進の一方で実施している	
ケ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定しているか。	いる	
コ. 地域個別ケア会議、推進会議において出席できなかった方へ、事例やテーマに即した意見を直接聴取し、会議内でその意見を共有しているか。	個別と推進の各々1回は実施している	
サ. 地域個別ケア会議において、介護支援専門員が事例提供を行い、介護支援専門員が会議を通じて支援を受けられる運営を行っているか。	いる	
シ. 地域個別(自立支援型含む)ケア会議において、写真・映像等を用いて、会議を開催しているか。※検査結果データ、お薬手帳コピー含む	いる	

評価の根拠

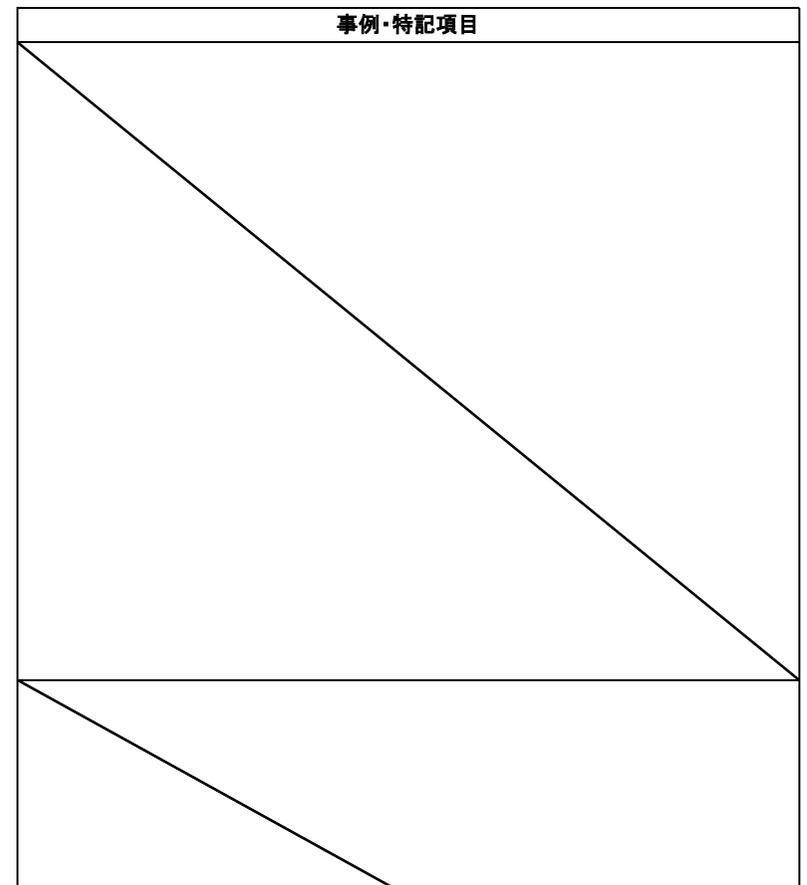
事例・特記項目
<p>「ク」が「実施している」場合、その具体的方策を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域個別ケア会議については相談の中から取り上げた事例、ケアマネ、地域の方からの相談事例等を検討している、事例は前もって参加者に送付し読み込んでもらっている ・会議の際出席者のみならず欠席者からも意見を聴取し共有をはかっている ・地域包括ケア推進会議については地域個別ケア会議で検討した個別課題について、参加者の中から出た意見を元に地域課題についての検討を行っている
<p>「ケ」が「いる」の場合に、参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税のまるごと相談窓口(税理士)
<p>「コ」が「実施している」場合、①職種②意見を聴取した方法③ケア会議内での意見反映方法を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医師・歯科医師・薬剤師、民生委員、居宅介護支援専門員、介護サービス事業所、不動産関係 ②事例を郵送し意見を聴取。 ③意見があった場合には事例の説明に合わせて口頭での説明を行っている。議事録にも記載し欠席者にも議事録を送付している。
<p>「サ」が「いる」場合、運営方法や工夫点を記載【自由記載】</p> <p>地域包括の入り口に地域個別ケア会議についてのポスターの掲示をしている。</p> <p>圏域の居宅介護支援事業所及び法人の居宅介護支援事業所への声掛けを行っている。</p> <p>地域で検討が必要な課題をもつケースについては担当ケアマネと連携し事例を提出している。</p>
<p>「シ」が「実施している」場合、具体的な取組等を記載【自由記載】</p> <p>若年性認知症のケースについてホームページを利用して介護申請に必要な特定疾病について説明。</p> <p>認知症高齢者の自立度、障害自立度についての説明。</p> <p>薬手帳の内容などについても説明を行った。</p>
<p>※地域包括ケア推進会議での協議後、実際に地域包括が取り組んだ実績があれば記載【自由記載】</p> <p>地域包括ケア推進会議で取り上げた内容についてケア会議だよりを作成し圏域内に配布した。</p> <p>コロナワクチン接種予約の練習会等も含めたオンライン練習会を行い、ワクチン接種の予約練習、公共料金のWEB明細の手続き、スマホの練習会を各1回ずつ行った。</p>

②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		4	4
評価の根拠	ア. センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。	いる	/
	イ. センター主催の地域ケア会議における検討事項をまとめたものを、市町村に報告しているか。	いる	
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、必ず地域包括ケア推進会議で報告しているか。	いる	



6. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援関係業務

評価項目		回答欄		行政評価	
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。		4		3.4	
評価の根拠	ア. 自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市町村から示された基本方針を、センター職員及び委託先の居宅介護支援事業所に周知しているか。	いる		/	
	イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけたことがあるか。	いる			
	ウ. 利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか。	いる			
	エ. 自立支援型個別ケア会議への出席回数	回数	4		回
		延べ人数	9		人
オ. ケアマネジメント作成件数。	1		件		
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		4		4	
評価の根拠	ア. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針が市町村から示されているか。	いる		/	



評価の根拠	イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録及び進行管理を行っているか。	いる	
	ウ. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するための工夫を行っているか。	いる	

--

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄		行政評価	
①医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	3		3.7	
評価の根拠	ア. 医療関係者と合同の事例検討会に参加しているか。	いる		
	イ. 医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加しているか。	いる		
	ウ. 在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対し、相談を行っているか。	いる		
	エ. 地域サポート医へ相談を行った件数			
	a.相談支援件数	相談支援件数	438	件
		内、サポート医事業	48	件
	b.アウトリーチ件数	アウトリーチ件数	0	件
オ. 在宅医療・介護連携支援センターが開催する研修会にセンター各職員(事務員は除く)が一度は参加しているか。	いる			

事例・特記項目

8. 認知症高齢者支援業務

評価項目		回答欄		行政評価	
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。		3		3.25	
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	いる		/	
	イ. 地域包括支援センター自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施しているか。	いる			
	ウ. 地域包括支援センター自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数	2	件		
	エ. 重点項目 令和3年度認知症予防プロジェクトにおいて、新規に開始したケース件数(高齢者人口1000人当たりの件数)	件数	5		件
	高齢者1000人当たりの件数	0.9			
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。		4		3.3	
評価の根拠	ア. 「専門職と協力しながらの実践活動」を行った、オレンジ協力の延べ人数	延べ人数	63	人	/
	イ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の開催回数・日程・主な対象者・参加者数。(人口10,000人当たりの参加者数)	参加者合計人数	258	人	
		人口10,000人当たりの人数	114.4		
	ウ. 重点項目 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか。 ※認サポアンケートの関係上「50代以下」を集計対象とする	65歳未満参加者	231	人	
エ. 認知症地域支援推進員として、認知症高齢者の社会参加のための取組みを行っているか。	いる				

事例・特記項目
/
<p>「ウ」が「1人以上」の場合は、その詳細(65歳以下 参加者総数・主な対象者・実施時の工夫点等)記載【自由記載】</p> <p>【65歳以下 参加者総数】</p> <p>①高校 195名 ②特別養護老人ホーム 19名 ③通常開催 17名 総数 231名</p> <p>【主な対象者】</p> <p>①高校生 ②介護職員 ③松戸市在住在勤の方</p> <p>【実施時の工夫点等】</p> <p>①認知症地域支援推進員で分担し講座を行った、当包括は中学生向けの認知症サポーター養成講座を元に高校生向けに作りかえて講座の作成を行った。 ②デイサービスの終了後の時間帯(18時以降)に合わせ実施した。 ③紙芝居での振り返り等視覚から訴える様な内容の講座を行った。</p> <p>「エ」が「いる」の場合は、具体的な取組内容を記載【自由記載】</p> <p>高校生向けの認知症サポーター養成講座を実施。 オンラインの認知症サポーター養成講座マニュアルの作成をした。</p>

9. 松戸市指定事業等

評価項目		回答欄		行政評価	事例・特記項目
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。		3		3.08	「ア」の実施回数及び最も効果的な活動を1つ記載 ・実施回数
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室の開催回数及び参加者数。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数)	参加者数	319	人	・もっとも効果的だった活動(1つ) 【教室名】 あたまと体の健康体操教室 【参加者数】 19人 【日程】 11月4日 【内容】 脳トレとDVDを利用した体操。 【効果】 コロナ禍で参加者も減ってきていたが、30分間テストの様に問題をとく脳トレの緊張感とDVDによる体操が、とても楽しみという事で徐々に参加者が戻り始めてきている。
		高齢者1000人当たりの人数	54.6		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の開催回数、参加者数及び参加者の活動継続割合。 (高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数) ※活動継続者割合(%)=活動継続者数(実数)/教室参加者数(実数)×100	a.参加者人数	21	人	「イ」の実施回数及び最も効果的な活動を1つ記載 ・実施回数
		高齢者1000人当たりの人数	4		
		b.活動継続割合	84	%	・最も効果的だった活動(1つ) 【教室名】 認知症予防教室 【参加者数】 6人 【日程】 6月4日 【内容】 脳トレとして、なじみのある「しりとり」ではなく真ん中をとる「なかとり」を行った。 【効果】 「なかとり」は必ず奇数の文字にしなくてはならない為、文字数も意識して行うことで脳への刺激になったかと思う。
ウ. ボランティアの育成をしているか。 (オレンジ協力員への支援は除く)	いる				
エ. 地域包括支援センター主催による介護者のつどいの開催回数	8		回	「ウ」が「いる」の場合、育成内容を記載【自由記載】 月1回認知症サポーター養成講座を開催しオレンジ協力員、オレンジ声掛け隊への登録者数を増やしていった。 地域住民の方に依頼し地域包括のイベントのチラシ配布、終了後の回収なども含めた啓発活動を行ってもらった。 「エ」が「いる」の場合、開催内容を記載【自由記載】 パーキンソン友の会の開催に合わせて開催し、本人が友の会に参加している中家族がつどいに参加する等参加しやすい環境を整えた。 パーキンソンの方だけではなく認知症介護をしている方や介護に興味がある方などが参加して活発に意見交換ができた。	

②生活支援コーディネーターや協議体と連携した取組を行っているか。	4	4
<p>評価の根拠</p> <p>ア. 生活支援コーディネーターや協議体・地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。</p>	いる	

